

# 京都における宿泊業の現状と課題

～京都府旅館ホテル生活衛生同業組合 理事長 北原茂樹氏のお話を聞いて～  
大阪商業大学 総合経営学部 商学科 山川莉沙、清水大輝、西川智紗、田中晴樹、大西祐太郎



## 1. 研究目的

今日の日本は、我が国を観光立国にするという目標を掲げている。しかし、我が国の心のふるさと、歴史ある町「京都」では、宿泊数の総数が1300万人を超えず伸び悩んでいることが問題視される。そこで宿泊者数を増やし京都の宿泊業の活性化を図るべく、現状・課題を調査した。

## 2. 現状分析として

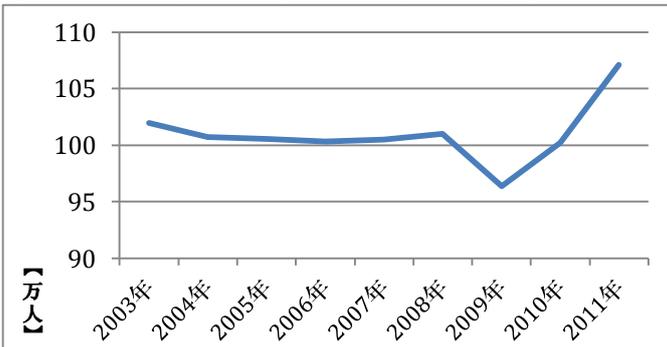
既存の研究から、京都における旅館件数がホテルより多いこと（図表3参照）がわかった。そして、京都市における修学旅行客数の受け入れが少なく、外国人宿泊客が増加傾向にあることにも新しく目を向けていくべきだとわかった。

## 3. 京都府旅館ホテル生活衛生同業組合におけるインタビュー調査を通じて

### 修学旅行生の調査結果

- ・修学旅行客は、宿泊業において利益源である。
- ・少子化の影響もあり生徒数が少なくなっている。最盛時年間200万人、ここ10年前から修学旅行に飛行機を使い始め、現在年間100万人に減少。
- ・一般客とのトラブルなど生徒の管理のしやすさから、修学旅行生はホテルに泊まる傾向がある。ホテルでは、食事を別、温泉やエレベーターは使わずに、低層階に部屋割りするなど分離の徹底が行われている。

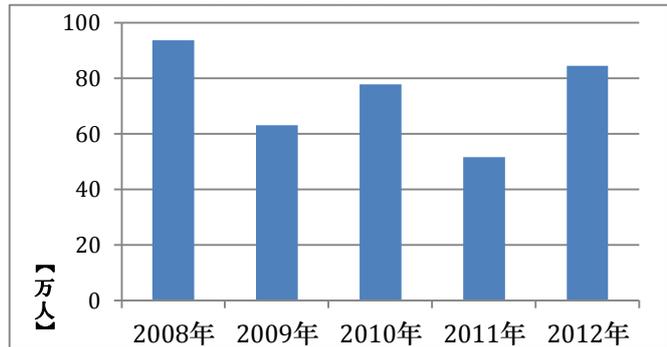
【図表1 京都市における修学旅行客数の推移】



### 外国人宿泊者の調査結果

- ・外国人観光客は主に中国・韓国などアジア系が多いが、政治問題などの影響で観光の波が激しく、利益源としてはリスクが高い。
- ・英語を話せる従業員を雇う、といったことはないが身振り手振りでコミュニケーションをとる。
- ・細かい相談などは「電話で三者交換」などといった外国人宿泊者サービスを提供し、24時間オペレーターが対応している。

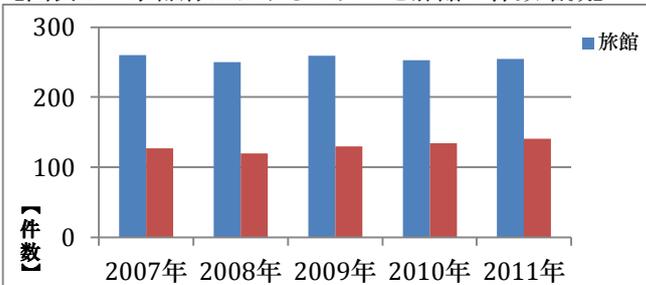
【図表2 年度別外国人宿泊者数の推移】



### ホテルと旅館の増減

- ・ホテルは大手資本、シティ、チェーンホテルなど全国展開したものが京都に増えてきている。
- ・旅館は5室程度の規模だと夫婦だけで経営することが多いため、後継者がいない。(子が他の仕事へ)
- ・ホテルはここ20年右肩上がりに増加しており、旅館は右肩下がりに減少し続けている。

【図表3 京都府におけるホテルと旅館の件数増減】



＜参考文献＞ 京都市産業観光局観光MICE推進室「京都観光総合調査」（平成24～20年度）

京都市産業観光局「京都市観光調査年報」（平成24～15年）

※本研究にあたり、京都府旅館ホテル生活衛生同業組合理事長・北原茂樹氏より様々な教唆を受けた。記して感謝したい。

京都府生活衛生課「京都府統計書」（平成23～18年度）

## 本調査の結果と課題

本調査では、京都府旅館ホテル生活衛生同業組合理事長・北原茂樹氏へのインタビューにより、我々が抱いていた課題がインタビュー調査を通じて明らかとなった。

修学旅行生の受け入れは他の顧客へのトラブルのもとと考えていたが、調査結果から「修学旅行客は、宿泊業において利益源である」と業界では肯定的な考えを持っていることが明らかとなった。また、「英語を話せる従業員を雇う、といったことはないが身振り手振りでコミュニケーションをとる」ということが明らかになっているが、これだけ世界的に有名な京都においても、外国人の受け入れについて大きな課題があることが分かった。ホテルと旅館の増減についても、旅館の後継者不足により旅館件数が減少し続けていること、全国展開しているシティ、チェーンホテルが参入しやすくなってきていることが明らかとなった。

京都の宿泊業が活性化することにより、関西の活性化、日本が

\*2013年7月6日、観光学術学会学生ポスターセッションにて発表